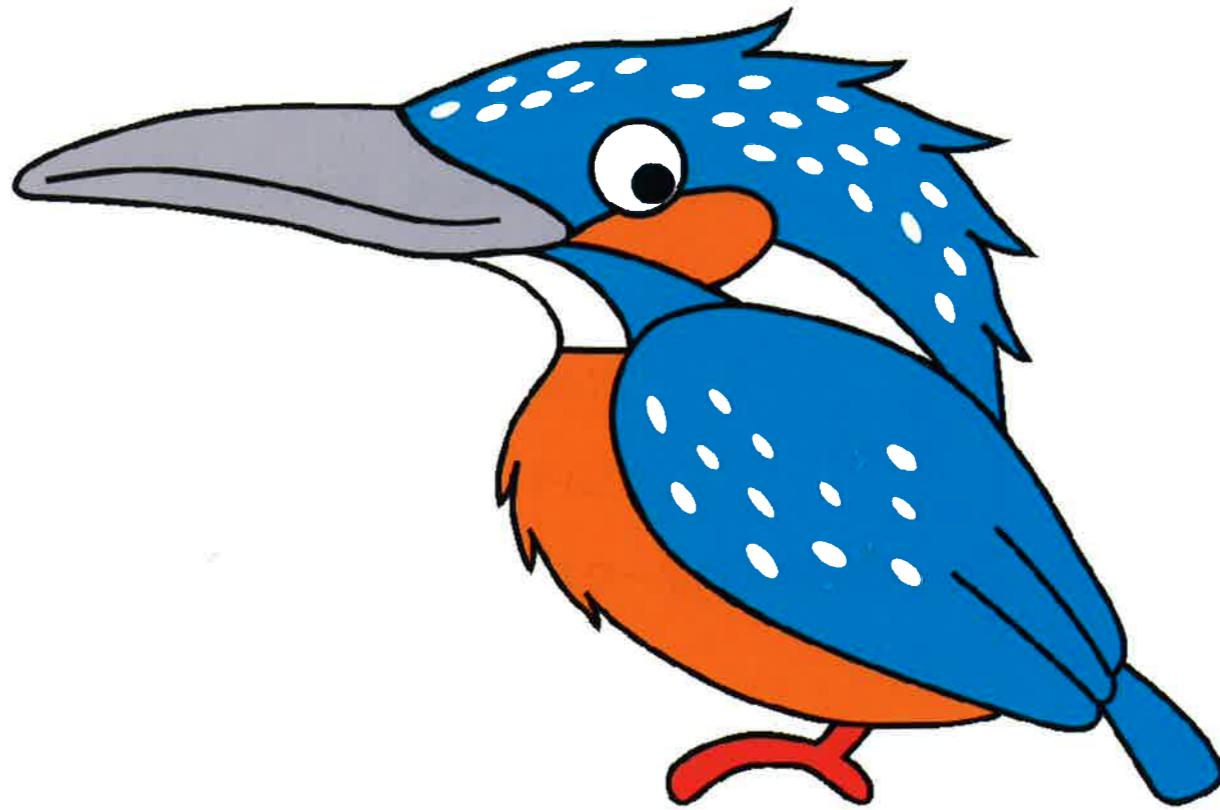


埼玉県立日高特別支援学校

平成26年度防災教育チャレンジプラン
「日高特支 防災意識向上計画」のまとめ



本校の取り組みが車椅子の皆さんと一緒に災害を乗り越えるためのきっかけになりますように…



平成26年発行



防災教育チャレンジプラン の支援を得て制作しています

許可なく複製することを禁止します



防災教育チャレンジプラン

この冊子は防災教育チャレンジプランの支援を得て製作しています

目 次

1. 平成26年度 日高特別支援学校 防災組織活動報告
2. 平成26年度 避難訓練およびショート訓練実施報告
3. 平成26年度ショート訓練まとめ
4. 職員防災研修 校内 DIG
5. 本校児童生徒に災害時つけさせたい力 9つの視点から
6. 平成26年度 防災体験プログラム
7. 本校の防災教材紹介
8. 本校の引き渡し訓練について
9. 災害時アクションカードについて
10. 職員防災研修 災害時のスクールバス対応訓練
11. 本校の防災教育実践例について



1. 平成26年度 日高特別支援学校 防災組織活動報告

	内 容	時 期	担 当	検討・周知
1	防災対策検討委員会の年間計画作成	3月～4月	防災部	全職員
2	防災対策検討委員会 第1回開催 以降2ヶ月に1度開催	4月22日 6月25日 10月15日 12月22日 2月 4日	防災部	防災対策検討委員会
3	防災研修① 防災マニュアル改訂の確認・読み合わせ研修	4月17日	防災部	全職員
4	家庭版防災マニュアル配布	4月18日	防災部	保護者
5	災害時対策本部および各班のメンバーの確認	4月末	防災部	職員会議
6	PTA・職員対象防災講演会の開催 (東日本大震災を経験した方の話)	8月 防災 体験プログラムと合同	防災部 PTA	職員会議 保護者
7	防災体験プログラム開催 (近隣市町および社協等と連携で)	8月25日	防災部 保護者他	職員会議 保護者
8	防災研修② 体育館2次避難想定避難場所設営訓練	8月29日	防災部	職員会議
9	災害時組織表に基づく各班の動き確認			
10	引渡し訓練(体育館での2次避難想定)	10月22日	防災部	職員会議 保護者
11	災害時アクションカード作成・検討	10月～ 12月	防災部	防災対策検討委員会
12	職員携帯用災害時アクションカードの作成・検討	11月～	防災部	防災対策検討委員会
13	防災研修③ SB乗車時の災害対応訓練 研修後各バス便で課題を検討する	12月24日	防災部 SB部	職員会議
14	事故防止対策強化月間	2月	防災部	全職員
15	地震に備えた防災総点検(家庭・職場の防災点検シート)	3月	防災部	職員会議 保護者
16	防災教育チャレンジプラン実践 「日高特支 車椅子の子どもたちを守る!防災力向上計画」	4月～12月	防災部他	職員会議 保護者

2. 平成26年度 避難訓練およびショート訓練実施報告

日 時	内 容	ね ら い
5月1日	伝言ダイヤル 体験	365日ネット、伝言ダイヤルなどで連絡が取れるかを、教員・保護者共に確認する。
5月12日	ショート訓練 説明	全校朝会でショート訓練のねらいと音の説明を行い、児童生徒に緊急地震速報への事前意識を持たせる。 必要に応じて新転入生には個別に対応する。
5月12日～16日	ショート訓練	緊急地震速報受信時における児童生徒在校時の初期行動を確認する。
5月26日～30日	総合訓練 (地震・火災)	・災害時に必要とされる的確な判断と行動力を培い、いつどこで起こるかわからない災害に対し、適切な行動がとれるようにする。 ・日ごろから災害時に備える必要性を再確認する。等
7月1日	伝言ダイヤル 体験	365日ネット、伝言ダイヤルなどで連絡が取れるかを、教員・保護者共に確認する。
7月7日～11日	ショート訓練	緊急地震速報受信時における児童生徒在校時の初期行動を確認する。
9月1日	伝言ダイヤル 体験	365日ネット、伝言ダイヤルなどで連絡が取れるかを、教員・保護者共に確認する。
9月16日～19日	ショート訓練	緊急地震速報受信時における児童生徒在校時の初期行動を確認する。
10月22日	引き渡し訓練	・児童・生徒は、災害が発生した場合の安全確保を知り、避難から引渡しまでの教員の指示を受けながら安全に、かつ落ち着いて行うことができる。 ・教職員は、安全が確認できるまで校内待機をするため、校内の安全な場所を確認する。自立活動室を第一次避難場所とするため、校舎内を安全に避難誘導し、保護者引渡しまで保護できる場所であるかを確認する。 ・通常の駐車体制で保護者に学校へ迎えに来てもらい、車の走行経路を確認しながら安全に引渡す訓練を行う。 ・教職員及び保護者は、緊急時対応票や引渡しカードを使用した引渡しを行い、その手順の確認を行う。
11月10日～13日	ショート訓練	緊急地震速報受信時における児童生徒在校時の初期行動を確認する。
12月1日	伝言ダイヤル 体験	365日ネット、伝言ダイヤルなどで連絡が取れるかを、教員・保護者共に確認する。
1月13日～16日	ショート訓練	緊急地震速報受信時における児童生徒在校時の初期行動を確認する。
1月19日～23日	避難訓練	・災害時に必要とされる的確な判断と行動力を培い、いつどこで起こるかわからない災害に対し、適切な行動がとれるようになる。 ・日ごろから災害時に備える必要性を再確認する。等 ・起震車体験を行い、全員で地震発生時の行動を確認する。緊急地震速報→地震という流れをイメージしやすくする。 ・児童・生徒は、災害の際の知識と対処の仕方を学習する。
1月20日	伝言ダイヤル 体験	365日ネット、伝言ダイヤルなどで連絡が取れるかを、教員・保護者共に確認する。
2月16日～20日	ショート訓練	・緊急地震速報受信時における児童生徒在校時の初期行動を確認する。 ・全校集会時に、全員で地震発生時の動きを確認し、今年度のまとめをする。
3月	評価・反省	1年間の避難訓練の評価・反省を行い、次年度への避難訓練に生かす。

*伝言ダイヤル体験…NTTが提供する災害時の連絡方法のサービスの一つ。「171」

*365日ネット…本校のメーリングリスト 緊急時の連絡を配信する

*ショート訓練…次項参照 緊急地震速報を用いた訓練の一つ。熊谷地方気象台HP参照

3. 平成26年度 ショート訓練まとめ

肢体不自由児校におけるショート訓練の有効性

肢体不自由児校において避難訓練を計画する時は「天候」「季節」により限定される。児童生徒の実態で夏の暑さや冬の寒さにより体温調節が苦手なことや、その季節での長時間外に避難することによる負担が大きいからである。また、「避難→事後指導」はある程度の時間がかかり、その後教室での休養が必要になるため、実施時間は同じ時間帯になり、決まりきった訓練による慣れが発生する。

ショート訓練は「緊急地震速報」を用いて地震発生時の初動対応の確認だけである。時間も5分程度、避難しない、という点で児童生徒への負担は少ない。また、短時間のため、さまざまな場面で実施が可能である。本校でもこれまで登下校（SB乗降時含む）時、授業中、給食指導中などで実施した。今までの時間の決まっている訓練とは異なり、児童生徒と二人きりだった、教職員一人に対し、児童生徒が複数人だった等、「本当の災害時はどうしたらいいのだろう？」という場面を体験することができた。実施回数もこれまでの避難訓練では年に2回だけだったが、季節を問わないため、年間を通して隔月の1週間をショート訓練実施期間として設定し、日程を知らせないで行った。平成24年度3学期から取り組んできたことで、全校に定着してきており、「災害はいつおきてもおかしくない」という職員の意識の向上が図ることができた。

なお、本校には緊急地震速報を受信し、校内に放送するシステムはない。維持費が毎月かかるため導入できないためである。それではこの訓練の意味はないのでは？という意見も聞かれたが、ここ数年の災害の8割は学校管理外の時間帯で発生している。家庭や外出先等で緊急地震速報を聞く機会があると思われる。そのような時にも自分自身の身を守る行動を取れるようにあえて緊急地震速報を用いたショート訓練を導入した。

ショート訓練に取り組んできたことで

児童生徒…自分で考え、行動する バリエーションを増やす

いつも机があるとは限らない特別教室等、身を守るものがない場合の対応

教職員…児童生徒及び自分自身の身を守る方法、その対応能力を高める

それぞれの時間、場所での課題・問題点を明らかにする

児童生徒を守るのは教職員である！その意識を一人一人高める

ショート訓練の概要

- 昨年度の訓練同様に期間を決めておくが日程は知らせない。
- 「緊急地震速報を受信する」→「校内放送でそれを知らせる」→「教室毎に適切な対応をする」
→「放送で終了を告げる」
放課後各学年・グループごとに反省をし、防災部に提出。それをまとめて学部会等で報告する。
事前学習として、実態に合わせて緊急地震速報が聞こえたら大きな地震がくることがある、その時はどのようにして身を守るか、という説明をしてもらう。
- 事後指導として実態に合わせて地震の時はどのような対応をしたらいいのか、話し合いをする。

今年度のショート訓練実施の結果

年度当初の5月の全校集会で緊急地震速報を聞いた時の身の守り方について一斉指導を実施。その後5回実施（計画では7回予定）した。

児童生徒…スムーズな動きが取れるようになってきた。机の下に潜る行動が習慣化してきている。

自分で身を守ることができる。搖れが収まるまで頭を保護することができた。

その場にあった行動をとれる・考えられるようになってきている。

頭巾を被ることに慣れてきた。

皆の様子を見て机に潜ったり、頭巾を被ったりすることができるようになった（ろう児）。

不安な様子もなく、落ち着いていた。

独歩できる生徒は車椅子の生徒への心配り（自分の頭巾を取る際に友達の分と一緒に持って渡す）ができていたり、机の下に頭を隠したりなどの行動が身についている。

教職員 …どの場所が危ないか、意識を高めることができた。

素早く身の回りのもので児童生徒を守ることができるようにってきた。

災害はいつ起きてもおかしくないという気づき。

車椅子に頭巾を携帯させる、一か所に全員の頭巾をまとめ、すぐに取れるようにする。

頭巾の位置（車椅子にかけて取り出しやすいか等）を確認することができた。

回数を重ねたことで慣れも出てきている 緊張感がなくなる。

抜き打ちなので児童生徒に事前事後指導をする時間がとれない。

【参考】ショート訓練 事前チェックリスト

【事前準備・指導等】

- 事前に実施期間中のリーダーを中心に指導する内容を確認したか
- 指導する時間を確認したか
- 事前に教職員が確認すべきことを実施したか
- 教室等の環境整備を行ったか？—「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」
- その週の授業予定場所の危険な場所を把握したか
- 避難経路を確認したか
- 教室や車椅子等に身を守るもの（クッション、防災頭巾、ヘルメット等）があるか確認したか

【事後指導・振り返り等】

- ショート訓練のことを振りの会等、全体で振り返ることができたか
- 速報が聞こえた時、どこにいて、どのように行動したか振り返りを行うことができたか
- どのようなことに気をつけたか、担任間で確認したか
- 児童生徒の反応、行動についてよかったです、困ったことを確認したか

※その他として自立活動の時間等で紙芝居の『あわてない あわてない』や絵本『じしんのえほん こんなときどうするの？』の読み聞かせを行い、他にも気をつけることを確認するようにする。

※一般学級の児童は手を頭に乗せて身を守る姿勢をとることができると、身体を丸くし、頭を低くする姿勢をとることを繰り返し伝える。

※この他の時間でも、布をかけてかくれんぼする時に名前を呼んで応える、などの遊びにつなげていく。

小学部〇年生 ショート訓練事前指導案

1. 日時 平成〇年〇月〇日(〇) 10:00~10:10
2. 場所 小学部重複〇組教室
3. ねらい
 - ・緊急地震速報の音を聞き、何かが起こることが分かる
 - ・頭を守る意味を知り、自分で守ろうとすることができる
 - ・非常時でも名前を呼ばれて応えることができる
4. 流れ

学習活動	指導の留意点	教材
(朝の会の途中で行う)	(朝の会の隊形で)	
1. 今週、ショート訓練があることを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・今週の予定の中で「ショート訓練がある」ことを伝える 	
2. 緊急地震速報の音を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチを押し、どんな音が聞こえるか注目する ・怖がる児童や驚く児童がいないか注意深く観察する。怖がる等の反応があった場合は落ち着くように教員が支援する。 ・音を聞いて児童が思いを伝えてきた時は共感する。 ・学校や家庭(テレビや携帯電話等)で聞いたことがあるか確認する。 	スイッチ教材(緊急地震速報器の音源入り)またはCDラジカセと音源CD
3. この音が鳴ると地震が来ることがあることを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・「この音が聞こえるとグラグラと揺れることがある」と伝え、教員が近くの児童の車椅子などを揺らす。怖がらない程度に。 ・音と揺れがイメージできるように支援する。 	
4. 地震の時は「上から落ちてくる」「横から倒れてくる・移動していく」ことがあることを知る そのような場合、身を守ることが大切なことを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・上から落ちてくるイメージとして柔らかいクッションを提示し、児童の前に落として見せる。「あぶない」「ぶつかる」等の声掛け。 ・一般学級の児童にはそのような時に自分の頭や身を守る方法を思い出させ、発表させる。 	クッション危ない場所の写真カード等
5. 頭を守るための防災頭巾やヘルメットを被る 頭が守られることに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの教員が被ってみせて、頭巾やヘルメットがあれば上から落ちても大丈夫、痛くないことを伝える。わざとクッションをリーダーの教員の頭に落とす等で分かりやすく。 ・被ることを嫌がる児童には無理強いしないが、これがあると安心であることを伝える。 ・教員は頭巾やヘルメットが被れる児童を確認する。被せ方などを工夫する。 ・頭巾等が難しい場合、近くに頭巾等がない場合もあるので、そのような時は近くにあるもので身を守ることを伝える。 	各自の防災頭巾またはヘルメット
6. 災害時はどこにいるか伝えるために声を出したり、呼ばれたら応えたりする	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの教員は毛布や布団を被っていて見えなくなるので児童の名前を一人一人呼び、どのように応えるかを確認する。 ・返事や発声が難しい場合は、ほかに同のような方法で自分がいることを伝えられるか確認する。 	教室内の毛布やクッション
7. 身を守ること、自分の名前を呼ばれた時にどこにいるか分かるために応えられるよう確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にもう一度、緊急地震速報が聞こえたら頭を守ること、教員が名前を呼んだときは応えることを確認する。 	

第〇回緊急地震速報による対応訓練(ショート訓練)実施計画

1. 日時 平成26年〇月〇日(月)~〇日(金) 抜き打ち 5分程度
2. 場所 教室等
3. ねらい
 - ・児童生徒は緊急地震速報を聞いた時に自分で、または教職員と一緒に身を守る対応行動をとることができる。
 - ・教職員はどのような場面でも落ち着いて児童生徒と自分の身を守る行動をとることができる。
4. 準備 緊急地震速報訓練キット(チャイム音+アナウンス+地震の揺れの効果音)気象庁ラジカセ
 - ・可能ならば児童生徒の車椅子に防災頭巾を携帯しておく。難しい場合は活動場所にクッション等、身を守るものがあるか確認しておく。
 - ・教室等の安全点検・環境整備を行い「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」ようになっているか全員で確認する。
5. 事前学習
 - ・夏休みの防災研修にて各指導単位で確認した「児童生徒に指導したい内容」または「教職員が配慮すること」を全員で再確認し、朝の会、帰りの会、学年活動等で指導する。
(指導担当はその週のリーダーが行う)

6. 学習の流れ

時間	学習内容と学習活動()内はつけさせたい力	◎支援方法 ●指導の留意点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報の音(ティロンティロン×2回)とアナウンス「地震です。落ち着いて身を守ってください」を流す。 ・アナウンスの後、CDを止める 	<ul style="list-style-type: none"> ◎放送が聞こえたらそれまでの活動を一旦中止し、最後までよく聞くように促す。 ●突然の音に驚く児童生徒がいる可能性があるので転倒や発作等を起こさないように目を離さない。
2	<ul style="list-style-type: none"> □児童生徒は緊急地震速報を聞いたら自分で、または教職員と一緒に「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所へ移動する。 (①身を守る・②緊急事態を察知する・④他人の力を借りる・⑤落ち着いた対応・⑥自立した行動) □自分でまたは教職員と一緒に頭を守る姿勢をとる。または防災頭巾やクッション等で頭部を保護する。 (①身を守る・③必要物品の活用・⑥自立した行動・⑨自己受容できる) □移動が難しい場合はその場で教職員と一緒に頭を守る姿勢をとる。 (③必要物品の活用・④他人の力を借りる) □音を聞いても落ち着いて行動をとる。または教職員の支援を受け入れる。 (④他人の力を借りる・⑤落ち着いた対応) □いつもと違う雰囲気を感じ、災害発生時の警報に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童生徒のそばにいる教職員、身を守るものを持つ教職員、それぞれの場所に近い者が適切な行動をとるようにする。 ●独歩の児童生徒が頭を守る姿勢をとる際にバランスを崩して転倒しないか確認する。姿勢をとることが可能ならば頭部を隠したダンゴムシのポーズをとるように声をかける。 ◎車椅子の児童生徒の場合はまずはブレーキをきちんとかけているか、ベルトを止めているかを確認する。それからクッションや防災頭巾等を頭に乗せ、頭部を保護するように声をかける。 ◎医療的ケアの児童生徒については防災頭巾だけでは不十分なので、「安全な場所へ移動する」「全身に布団等を被る」「気管カニューレや胃ろうボタン等配慮の要する場所は毛布等を多めにかける」のいずれかができるようにする。 

(②緊急事態を察知する・⑤落ち着いた対応・⑦周囲の状況の理解)

□自己では頭を守る行動がとることが難しい(防災頭巾やクッションをとることができない場所にいる等)場合は、周りの人に必要な支援を依頼できるようとする。

(④他人の力を借りる・⑨自己受容できる)

- 周囲を確認し、危険な箇所だと判断した場合は速やかに児童生徒を移動させる。
- 移動が難しい場合は、その場で身を守る行動をとる。
- 医療的ケアの児童生徒はそばに吸引器がある場合も多いので、吸引器が倒れて壊れないように周囲の確認をしておく。

◎周りを見ていて何もしていない児童生徒がいたら対応行動がとれるように支援する。

- 可能ならば出入口の確保、カーテンを閉める等の行動をする。

◎放送をよく聞くように促す。訓練だったことを伝える。

- 訓練だったことを確認してからクッションや頭巾を外すようにする。
- 出入口の確認を行う(実際の災害の時を想定し、確認を習慣化する)。

- 緊急地震速報の音を怖がる児童生徒もいる可能性があるため、怖い音ではないことを全体または個別に説明する。

緊急地震速報→身を守る音

3 ・しばらく経ってから(1分後)地震の状況の確認の放送をする。
「訓練。訓練。ただ今、日高市で震度5弱の地震が発生しました。震源は茨城県北部、最大震度6でした。」

□ 放送をよく聞く。

(②緊急事態を察知する・⑤落ちついた対応・⑦周囲の状況の理解)

「みなさん、今のは訓練です。緊急地震速報は決して怖い音ではなく、地震の前に安全な姿勢をとるためのもので、みんなを守ってくれる音です。これからもこの音が聞こえたら自分の身を守るように心がけてください。以上でショート訓練を終わります」

7. 評価の観点 •緊急地震速報を聞いて身を守る適切な対応がとれたか。

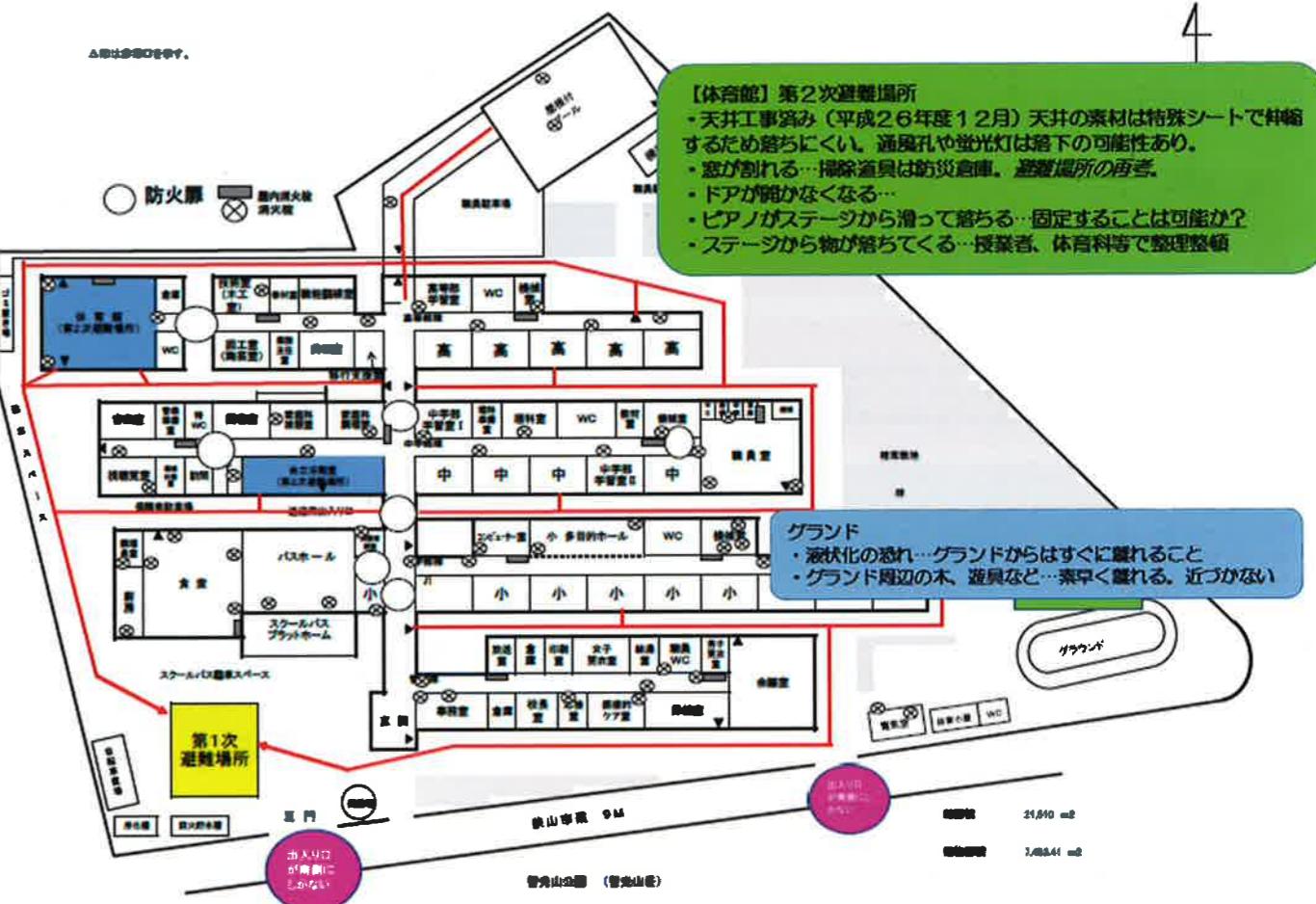
(自分だけ・または教職員と一緒に)

8. 事後学習

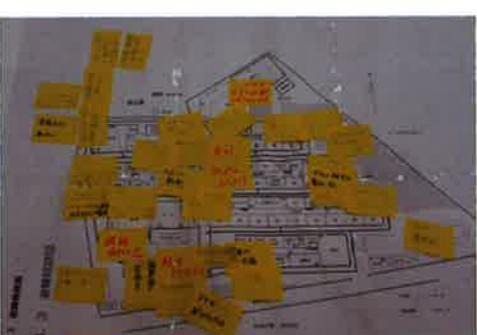
- ・児童生徒の実態によって行動の振り返りを行う。ショート訓練の後が望ましいが、時間の関係などで帰りの会等の短時間でも行うようとする。
- ・緊急地震速報が聞こえた時、「どこにいたのか」、それから「どうしたか」、その時「どのように気に付けたか」「困ったことがあったか」を振り返る。自分の行動を思い出して確認できるように、必要な支援(行動を真似して言葉にする、等)をする。
- ・児童生徒の実態に応じて可能ならば、自分の行動を振り返り、次からどのようにしたらいいのかを確認できるようにする。
- ・教職員同士で対応行動について確認し、よかったことや気を付けることを話し合う。

また、教室等の安全点検・環境整備を再度確認する。改善の必要な点については防災部へ要望を出す。

4. 職員防災研修 校内 DIG



4月の教職員対象の防災研修で、校内 DIGを行った。校内図を元に、災害時に予想されることや危険な場所などについて指導学年、グループ単位で話し合った。新転任者には本校のことを知ってもらう機会となり、全員で本校の課題を確認できた。まとめた図については職員室および校内の防災部コーナーに掲示し、本校に訪れた人にも見てもらえるようにした。



【教室】

- ・天井の落下
- ・ロッカー、棚、窓際から物が落し…飛び出さない工夫。シートを敷く。
落ちたら危ないものは上に置かない
- ・エアコンの配管、本体の落下、蛍光灯が割れる…場所を常にチェックする。
- ・固定されていない椅子や机が倒れる、動く
- ・扉が歪んで出られない…車椅子が通れる幅を確保したい。ドアのストッパーなど。
- ・窓ガラス…飛散防止シート(特に小学校部)を貼る。窓から離れる。カーテンをする。

【小学校多目的室】

- ・棚、物品が多く、落ちてくる。動いてくる…整理整頓、素早く離れる。車など動く可能性大

【バスホール】

- ・屋根崩落…落ちてくる可能性があることを知る。ヘルメットがバスホールにある。

【トイレ】

- ・着替え中の対応、ベッドにいる時など…落しないように。周囲の安全を確認する。
- ・トイレットペーパーの転倒…おもりの確認。周囲の安全を平時からチェックする。
- ・窓ガラスの飛散…飛散防止シート
- ・児童、生徒と二人きりの時…慌てないこと。必要により助けを求める声を出す。
- ・トイレのドア(歪んで出られない・自動ドアが開かない等)…ドアを開ける方法の確認。

【図書室】

- ・本が落ちてくる…棚の滑り止めシートなど対応済み。本棚から離れる。

【職員室】
・窓の物、机の上の物が落ちてくる…整理整頓・机の下は安全か?
(移動式の引き出しがあり、入れない)

【調理室・被服室】
・火事になるかも…すばやく火を消す(初期消火)。
・実習中のため、作業台の上の荷物が多く、落ちてくる…素早く離れる。
・ガラスが割れる…素早く離れる。

【ガラス】
・ガラスが割れる…車椅子のパンクに注意。足元の怪我の可能性。
・床に散らばり歩けない…掃除道具は防災倉庫にある。児童生徒の足元に注意。

【給食】
・びっくりして詰まらせたり、スプーンなどを噛んだりしないか?
…発作の時と同じように考えては?着ち替えて行動する。
震感の時の対応(背中を叩く、等)

【プール】
・プールの屋根、両側のガラス…屋根はアクリル、ガラスは割れる可能性あり。
プールサイドは素足なので危険。
・プールの水があふれる、波立つ…すぐに上がりたいがガラスもある。対応は?
・車椅子が近くにない…声掛け合う。どこにあるか把握しておく。ベッド等の場所も。

【職員室】
・頭を守るものがない
・頭を守るものがない…防災頭巾を近くに置いておく(車いすに付けて置く等)。
独歩の子は鼻をかがめて頭を守ることを徹底させる。
・頭を守るためにできること…個人に応じた方法を考えておくこと

【理科室】
・一般学級の授業で使用することが多い。教員一人に対し、生徒が多い。教室も狭い。
…中学生等近くの教員へ声をかける。学部全体でどの時間にどこにいるのか把握。
…薬品、器材等が多いので素早く離れる。机の下に潜る等。

【廊下】
・消火器の落下…固定はしてありますか万が一のことを考え離れる。
・廊下の物が飛散する…整理整頓を平時より意識づけ。荷物の多い場所を確認しておく。
・植木鉢が落ちる…滑り止めシート対応込み。素早く離れる。
・配管の落下、離れる場所がない…配管から離れる。比較的安全な場所を平時より確認。

【医療的ケア】
・電気、水道、発電機等のライフライン…ケア児童生徒の医療器具のバッテリーの確認
発電機はエネボ用予定。
ボリタンクが備品で届いたので水を平時より確保する
・ポットのお湯がこぼれる…近くから離れる。
・ワゴンが動いてぶつかる、吸引器等が落下…そうならないよう対応を考える。壊れたら困る!
・イルリガートルのスタンドが転倒→最悪チューブが抜ける…その時の対応を確認する。
・医療的ケアの児童生徒は担任団、ケアルーム等で対応について事前に確認しておく。
(介助者についても保護者と確認しておく)

【車椅子】
・車いすが動く、倒れる…フレーク、ベルトのチェック
フレークをしていても車椅子は動く(研修映像参考)

【教員】
・バラバラで活動している時の判断…任せにせず、自分で判断する。
・子供をどう守るか…児童生徒だけではなく、自分も生き残ること。
大人が負担すると救出の人手が足りないため。子どもを守り切れない。
・大人が慌てず冷静に声掛け合うこと

【児童生徒】
・緊急放送にびっくりして発作…実際物では緊急地震速報は放送されない。
家庭等日常でも聞かれる音のため、慣れてどう動くか知っておく。
冷静な対応。

【体制】
・教員の数が不足…どのように連れていくか全員で確認。朝の調整等で確認体制の確認。
・支え歩き、不安定な歩行…車椅子の使用。用意しておく。おんぶ紐の用意(教室毎)。使い方研修

【このような時どうする?】
・教室にて教員が一人で複数の児童生徒といふ…周りに声をかける。応援を求める。
・車椅子の子は降ろす?…地震時に降ろすのはかえって危険。安定した姿勢で。
・床で横になっていた時、車椅子に乗せて逃げられるか。
…平時に担任団で確認しておく。どのような動きをするのか?
…医療ケア児童生徒は事前に関係者で確認しておく。

【ライフライン】
・停電…自家発電、発電機について周知。使い方の研修等
・冷暖房が止まる…各自書き、寒さ対策を考えておく。
・自動ドアが開かない…復帰方法を全員が知っておく(壁のありかなど)。
・断水、水管が破裂して水浸し
・ガス配管が破裂…ガス管のチェック。震災対策の児童生徒がいるので注意。
・火災…火災の対応について全員で研修する。消火器の使い方等。
・電話が不通、保護者との連絡が不安…365日ネット。
伝言ダイヤル171、web171の活用
・テレビからの情報…ラジオの活用。管理棟の壁の本部BOXにある。

5. 本校児童生徒に災害時につけさせたい力 9つの視点から

本校の第2回防災研修では、教職員が担任している児童生徒に防災に関する具体的な指導について考えた。その後のショート訓練や普段の指導の中で実践しているところもある。その時に挙げられた「児童生徒に伝えたいこと」を共立女子大の「災害セルフケアパッケージ 一肢体不自由児用一」の9つの力を基に、分類した。(下線部は本校教職員から出た意見、太字は日常の指導で行っている、行えるであろうこと)

① 身を守る

頭を守ること・机(の下に潜り)をつかむこと

頭巾を被れるように慣れる

体調を整える

避難できる方法が分かる

危険な場所・安全な場所が分かる

空調・窓を避け、教室の中央に集まる

(教職員と共に)周囲の環境を整える

② 緊急事態を察知する

災害の知識(災害発生のメカニズムが分かり予測できる)

日常の中で知識を伝えていく

緊急地震速報を何回か聞かせてこれは緊急事態の時の音であることに気づかせる

分かりやすい絵本や紙芝居を見せる

逃げ道を探すことができるか

ます逃げる

起りやすい災害の種類がわかる

③ 必要物品の活用

マスクの必要性。マスクと頭巾と一緒に携帯する。タオル等の代用も。

防災頭巾に慣れる

頭を保護するものが被れる(毛布、クッション、帽子等)

靴が履ける

非常持ち出し袋の準備ができる

非常食を食べることができる

④ 他人の力を借りる

助けを求めることができるか

声を出すことができるか

校内ではできても校外ではできるのか?

大人が指示しないとできないのではないか?

何を支援してもらうか、何が必要か伝えることができるか

自分の言葉で表現できるか

保護者・教職員の指示に従えるか

保護者・教職員に意思表示できるか

⑤ 落ち着いた行動

慌ててけがをしないように

落ち着いてその場で待機すること

身近な大人の言うことが聞ける

集中して話を聞くなくてはいけない時がわかる

緊急地震速報、警報に慣れる、慌てない

自分が落ち着くための方法が分かる

状況に合わせた行動がとれる

⑥ 自立した行動

自分でできることは行う
守ってもらうだけでなく、守る意識をもつ
慣れない場所でも自立した行動がとれる
状況に合わせた行動がとれる
トイレや水分補給等の要求を身近な大人に伝えられる
自分でできること、できないことを人に伝える

⑦ 周囲の状況の理解

災害発生時の周囲の状況を知る
災害により身の回りに起ることが分かる、予測できる
いつもと違う環境がわかる
正確な情報を獲る手段がわかる
危険を意識できるか

⑧ 連絡手段の獲得

連絡先がわかる

⑨ 自己受容できる

自分の体調がわかる
避難（移動）に必要な援助が分かり、受け入れることができる
自分の気持ちを表現できる

6. 平成 26 年度 防災体験プログラム

今年度初めて開催した防災体験プログラム。「防災講演会」と参加者全員で防災について体験し、考える機会になるように、「防災スタンプラリー」の 2 本立てで行った。PTA 本部役員の方から出た「避難所ってどんなところ？」「炊き出し」「東日本大震災を体験した人の話を聞く」という希望を中心に午後 1 時の講演会から 6 時の炊き出し終了までの 5 時間の内容で行った。

福祉避難所体験

本校は災害時、日高市の福祉避難所になります。予め計画している 1 人 3m² の広さで設置し、その雰囲気を感じてもらいました。あえて当日はマットを敷かず、固い体育館の床を体験しました。専用のパーテーションではなく、普段ある段ボールで作成したので足元に支えの段ボールが残って少し邪魔そうです。家族用には広めの 9m² のものも用意しました。実際にこの通りになるかもしれませんのが車椅子や医療器具などを置いて確かめてもらいました。



夏の体育館に設置した段ボールの仕切りは風を通しにくいものだった。座った時にちょうど周りが見えない高さに設定した。立っていると見えてしまうが、あまり高くしてしまうと何かあった時に気づいてもらえないから、という理由。しかし、この仕切りで圧迫感があったようで嫌がる児童もいた。



ガラス飛散体験

体育館の薄暗い廊下に設置したガラスにみたてたペットボトル。歩いてみるとガラスのような音がします。暗い中、車椅子を押して、その足元まで注意が向くかどうか？ 確かめもらうコーナー。災害時はガラスを踏んでしまうと怪我をしたり、車椅子のタイヤがパンクしたりすることがある。車椅子で足元が見えない中、ガラスがある場所での対応を考えもらうために計画した。

ウサギ一家の防災荷造りゲーム

家族それぞれ災害時に必要なものは何か？お父さんは？お母さんは？ボクは？ワタシは？何をリュックに入れるのか、ワークシートに書いてから大型版で発表し、その理由も教えてもらった。

家族の写真を選んだ小学生は、「『この人を探してください』と言う時に分かりやすいから」、保護者は「楽しかった思い出は人を元気にするから」と話していた。

また、実際に選んだものをリュックに入れてその重みを感じる体験も必要だ、ということを確認した。これは来年度行うことにしておこう。





左から発泡スチロールトイレ（中に段ボールの排泄物入れ設置）
中央2つ段ボールトイレ（二重構造。左は小さい子向け、右は大人でも大丈夫）
右は発泡スチロールトイレ。箱自体が大きく座りやすい



災害用トイレ試乗体験

市販の災害用の段ボールトイレが本校には備蓄されている。災害時はトイレが足らないらしい。要は座れて中に排泄物を入れる袋があればいい。ならば身近なもので作れるのでは？今回は防災部が試作した段ボールトイレと発泡スチロールトイレを体験した。どちらもすぐに作れるもの。発泡スチロールトイレはお尻の当たりも優しくて評判もよかった。加工しやすいが蓋が薄いので補強が必要なのが課題である。

家庭のトイレは災害時どうするか？外で被災した時は？使いやすいトイレのタイプやと身近なもので代用ができるか、など考えておく必要がある。



家族向け：防災クイズ

校内あちこちにあるこれらの写真、いったいなんだろう？答えはめくって確かめる形。何に使うか説明も分かりやすくした。校内を散歩する時に探してみるきっかけに。

炊飯袋を使ってご飯を炊こう！
今回のプログラムでは、埼玉県の炊き出し応援隊からお米とガスを提供してもらった。水が貴重になる災害時に米を研がずに炊ける魔法の袋を使ってご飯を炊いてみた。鍋の水が綺麗なら袋にそのまま米を入れて炊くだけのもの。ふっくらご飯が炊けて参加者は驚いていた。



雨を避けられる保護者送迎口に炊き出し場所を設置したよ

帽子タイプのヘルメット、これなら被りやすいかな？



災害について知ろう！防災について学ぼう！

東日本大震災の時の東北地方や日高特別支援学校のある埼玉県でも被害があった。防災学習センターから借用した写真46点で振り返るコーナー。講演会や休憩室で使用する会議室の壁を写真パネルで埋め尽くした。



他にも防災に関する絵本や漫画、図鑑など、それぞれの年齢に合わせて用意し、家族も一緒に防災について学んでもらった。

防災頭巾の代わりになりそうなヘルメットや頭部保護帽子も展示し、それぞれが被る体験も行った。



水消火器を使ってみよう！

日高特別支援学校児童生徒は毎年体験している水消火器。災害時に実際に使用する可能性のある家族の人は使い方を知っているのか？高萩消防署から水消火器を借用して消防士や埼玉県防災士会の方に使い方を教えてもらいながら火の的に狙う体験。参加した家族も楽しんで体験していた。



エネポを使って発電してみよう！

本校で災害用備蓄の発電機エネポ。カセットガスを使って発電する。安定した電力を供給するので医療的ケア用に使用予定。簡単な使い方の説明と体育館にあった扇風機は動くか？と言うことで急遽実演をしたもの。ガスを使用するのでエネポは必ず外で使うことを参加者と確認した。



伝言板を利用してみよう！
災害時はテレビやラジオなどの情報が頼りになるが、避難所では大勢の人がいるため、情報が混乱する可能性がある。みんなに確実に伝わるように「伝言板」を設置して使うことが多い。体験プログラム当日は朝から職員達もこの伝言板で連絡を取り合った。参加した方には何が書いてあるか確かめてもらいつながらこの日の感想を書いてもらう、という両方の体験をしてもらった。紙と筆記用具、テープが必須だということが分かった。



(左) 炊き出しの開始時間はこちらに書き出してもらった。



(右) 参加者にも感想など書いて貼り出してもらった。



本日の炊き出しはカレーです！

朝から雨だったこともあり、当日は調理室での炊き出しに変更した。高等部で育てたジャガイモを提供してもらった。カレーなら具をつぶせばいいので食べやすいだろう、と本校の栄養士の助言で今回の炊き出しのメニューを決めた。

避難所の受付を体験しよう

避難所ではまず受付で誰がここにいるかを記入する必要がある。第2部のスタンプラリーを始める際に体育館の入り口に受付を設置して実際に書いてもらう体験をした。行ってみると、「必要な支援方法がすぐに分かるような書式の工夫」や、「家族全員を書くのか、いる人だけを書くのか」などの課題も明らかになった。

また、日高市では災害時にこのカレーを配布予定とのこと。ユニバーサルフードと言って食べやすいやわらかいご飯とカレー。アレルギーにも対応。受付時にこれも一緒に配布した。災害時は受付とは別に配給されるものになることを確認してもらった。



田中総一郎氏講演会「肢体不自由児の体験した東日本大震災」

東北大学の准教授で震災時、拓桃療育センターの小児科医だった田中先生の講演会を第1部に行った。「生きて生き延びて」という言葉が印象的で震災で起こったことを分かりやすく話して下さった。

災害時要援護者制度のことや福祉避難所、災害に備えてその子に必要なものは多めに用意しておくことをお話していた。また実技として停電時に使える手動・足動の吸引機を数種類体験することができた。本校の教職員や保護者だけではなく、県内の教職員等や光の家の職員、防災士、学生ら、外部から14名が参加した。



上の写真のような様々なタイプの吸引器を体験できた。手や足で動かしながらの吸引は体が動いてしまい、難しいので二人一組で行うことが必要になることが分かった。シリングを使う吸引方法も教えてもらった。

7. 本校の防災教材紹介

【防災部コーナーに掲示し、全校児童生徒が自由に使用できるもの】

① 緊急地震速報が聞こえるスイッチ教材

「この音が聞こえたらどうする？」と問い合わせながらスイッチを押す（または児童生徒に押してもらう）とあの音が…



(左図)思わず頭を抱えてダンゴムシのポーズをとる児童。傍にいた教員から、何かで頭を覆うといいね、とアドバイスを聞いて、たまたま持っていたバスタオルを自分で頭に被せていました。

このスイッチの後ろには、校内にある「落



ちてくる」「倒れてくる」「移動していく」可能性のある場所の写真(右図)があり、一緒に確認できるようになっている。また、「ダンゴムシのポーズ」「車椅子のブレーキとベルトのチェック」と言う「地震の時の約束事」のコーナーを見てどのようにするか事前に話しておくことができる。

② 防災クイズ「こんなときキミならどうする？」



総務省消防庁のHPの防災教材より使用している。元々は紙芝居のこと。これを使って災害や生活事故に関する対処方法を楽しく学習できる。これを全部使用すると長いので、家での地震発生時の対応だけを選んでクイズ形式にした。

2択になっていて、それぞれの答えをめくると書いてある。めくる楽しさを感じもらいたかったのですが、



本校の掲示の高さは、車椅子の小学部の児童には高いことが課題である。プロンボード等での立位の学習の時では届く高さなので、自立活動の時間等で活用して欲しい。「おうちはどうかな?」という話のきっかけになるのではないか、ということで保護者の方にも見てもらえる防災部コーナーに掲示した。



③ 防災クイズ 「これなあに？」

防災体験プログラムでも使用したもの。校内のあちこちにある消火器、非常ベル等の写真を使ってクイズ形式で説明した。こちらもめくって答えを確かめられる。めくる動きは子どもたちには楽しい活動の一つだと思うのでこちらも②と同じタイプにした。

同じものを探しに校内オリエンテーリングに出発！など他の活動に発展できる。

④ 紙芝居「ぼうさいマン」

神戸学院大学から寄贈していただいたもの。文字が多くて長いので、児童生徒の実態によっては難しい場合もあるが、イラストが分かりやすくて注目しやすい。

ぼうさいマンというヒーローは子どもたちにも興味をもちやすいものの一つ。内容をアレンジして使ってみることもできる。

訪問部の「防災学習をしよう！」の授業で使用した教材。



⑤ 紙芝居「あわてない あわてない」



幼児向けの紙芝居。本校の図書室に「稻村の火」「台風の日に」と3部作で一昨年入りました。地震の時にあわてずに対応できるように分かりやすく書かれています。

話も短いので朝の会などすぐに読みます。『今日は避難訓練だから、地震の時はどうしたらいいのか考えよう』と言って読んでみるのもいいかもしれません。

⑥ 絵本「じしんのときのおやくそく」

幼児向けです。本校で取り組んでいる約束事とは異なりますが「地震の時は『あおにんじゃ』おむかえるまでまっててね」の合言葉で「あたまをかくして」「おくちにチャックでよく聞いて」「にんじゃあるき」をする、というものです。

「にんじゃあるき」などは遊びの場面や自立活動や体育等の学習でも利用できるかもしれません。意識していなくても防災につながりますね。



⑦ 絵本「じしんのえほん こんなときどうするの？」



昨年度、本校の防災講演会の講師の国崎さんの監修した絵本です。小学生むき。日常生活でよくある様々な場面で地震がおこったら？をイラストと共に分かりやすく伝えています。クイズのように児童生徒に問い合わせながらページをめくっていく等で活用できます。

埼玉県は海がありませんが、旅先が海のそば、ということもあるかもしれません。津波の話も一緒にこの機会にできるといいですね。

⑧ 小学校高学年以上向けの本



「地震はなぜ起こるどう身を守る」

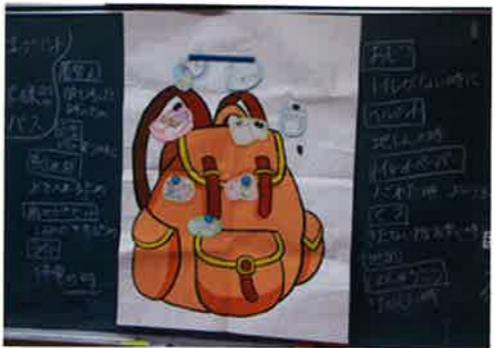
「大地震サバイバル」

「72時間生き抜くための101の方法」

⑨ ゲーム【うさぎ一家の防災荷造り】

災害救援ボランティア推進委員会 宮崎氏より

防災体験プログラムの中の防災スタンプラリーの1つとして取り組んだ。同じ家族でも災害時必要と思うものがそれぞれ違う、と言うことに気づいてもらうことができるゲーム。ワークシートもあり各自で取り組めるようになっている。またみんなの前で発表するためにカードで選んで大きなリュックに貼りだしてもらえるようにしてある。



小学部5・6年生の家庭科「安心安全な生活」でも教材として使用した。

ワークシートで各自選んでから黒板に貼りだしたリュックにカードを貼りながら、選んだ理由を発表してもらった。

選んだだけではなく、実際に同じものを用意してリュックにいれて背負う体験もした。水は2リットルだと重くて背負えない、自分で背負うなら500ミリリットルかな？と考えたり、自分たちの家から用意してきた非常食と同じものを試食したりして、その味の感想を家の人に伝えた。また災害時に自分が食べたいものを考えてくる、という家庭学習にも取り組んだ。

⑩ 災害時にも役立つ調理方法「ポリ袋レシピ」・「炊飯袋」

高等部の家庭科の授業でカブのポタージュ作り（下左図）をした時に活躍したのがこちらのような「ポリ袋調理法」。ポリ袋の中に材料・調味料を入れてセットし、水を入れた鍋で茹でるだけで色々な料理に変身する！というもの。

袋毎にできるため、一つの鍋で同時に数種類の料理が作れることや、食形態毎に作り分けが可能。鍋の水は繰り返し使用できるため、水が基調になる災害時に役に立つと思われる。

また、小学部の生活科では自分たちで育てたサツマイモの調理としてサツマイモご飯を炊飯器で炊くついでにポリ袋に入れた煮物とホイルに包んだふかし芋を同時に作り、火を使わない調理法として活用した。



高等部では袋に入れて茹でた後、ミキサーに入れてポタージュ風にした。災害時は停電の可能性もあるので、袋毎押しつぶすなどの工夫で入れ物を汚さず、洗い物を増やさないで再調理が可能になる。

専用の炊飯袋を使った炊飯方法は防災体験プログラムでも行った。米を研がずに袋に入れて、水を入れた鍋で炊く方法。

中学部では生活単元の授業で自分たちの育てたお米を、「お茶パック」で炊いた。この他にもポリ袋にきれいな水を入れて、水（飲用水でなくてもよい）を張った鍋で炊く、という方法もある。



8. 本校の引き渡し訓練について

本校に在籍する児童生徒の学区は7市4町と広範囲である。スクールバス7台を利用すると共に、保護者送迎やレスパイトサービス送迎利用者と様々な登下校の方法がある。実際に児童生徒在校時に災害が起きた場合、

① 引き渡すまでどこでどのように安全に避難しているか

② 引渡しの手順方法の確認

③ 引渡しまでの教職員の動きの確認を検証していく

という目的で、下校時刻に合わせ、避難訓練～学校で待機～引渡しという流れ（授業時間確保との関係で）で計画した。昨年度から引き渡し訓練を実施し、今年度は2回目になる。

昨年度は初めての引き渡し訓練ということで、

・避難場所を体育館（マニュアルでは第2次避難場所にあたる）と想定。

・正門から体育館までの職員の車を移動させて、保護者の車がスムーズに通行できるように配慮。

・従来の保護者送迎口から正門までの相互通行を訓練時は校舎外の通路を一方通行とし、混乱のないように職員（この日は自立活動部と訪問部の教職員が在校日のため担当）を多めに配置し、誘導。

・好きな駐車スペースに車を止め、体育館に保護者が迎えに来て一定の手続きを行い、児童生徒を引き渡してもらい、そこで教職員は離れて、保護者と児童生徒だけで車に乗り込む。

という体制をとった。大きな混乱もなく、スムーズに引き渡しが行えた。

しかし、レスパイトサービス事業所によって災害時の対応についての違いが明らかになつたため、今年度から「震度5弱以上の地震が発生した場合、原則保護者引渡しとし、レスパイトには引き渡さない」ことを明文化し、ネームプレートや免許証と一緒に携帯できる大きさの引渡しカードを作成、配布した。

今年度の変更点として、

・通常通り職員も駐車。

・避難場所は体育館の工事のため自立活動室に変更。

・避難経路が危険との想定であえて外に避難せず、校内待機の想定。

・計画では保護者は車から降りずに、教職員が児童生徒をそのまま送りに行って乗せるというドライブスルー方式。

・車の誘導係は昨年度同様自立活動部、訪問部は訪問日のため不在、防災部が担当

という、できるだけ平常時に近い状態で行った。校内待機について、そして自立活動室が避難場所として適しているか、ドライブスルー方式の引き渡しについて検証する計画だった。当日は雨だったことにより、ドライブスルー方式から屋根のある場所にバックで2台ずつ入庫する方法に変更したため、引き渡しの時間が予定より40分オーバー、車が正門から一般道まで渋滞してしまうなど敷地内外は大混乱ってしまった。また、引き渡しカードを持参していない保護者が多く、代わりのカードを用意して記入させたため、その時間も予定超過の原因の一つである。

訓練後、各係での反省や職員アンケートを元に、いくつかの反省が挙げられた。

① 引き渡し訓練実施時期・方法について

・寒くなる前に実施（2学期は行事との関係があり調整が必要）。

・早い時期に確認した方がよい。

・実施単位の見直し（学年限定の単位等で実施、少人数の参加で職員は動きの確認ができる）

② 学校災害対策本部

・学校災害対策本部の立ち上げの時期、場所を明確に。全体への指示連絡が明確でない。

・どこに避難しても対策本部はみんなに分かる場所に設置。

・年度当初に防災担当と管理職で災害時の動きを確認。

③ 避難場所

・複数想定しておく。それぞれのメリット、デメリットを知っておく。

・自活室…（デメリット）狭い、トイレや医療的ケア実施スペースが別になり、連絡等が不十分。（メリット）比較的校内では安全な場所

・体育館…（デメリット）ガラスが多く、フィルム未設置のため割れる可能性あり。校内の奥まった場所になり、出口から遠い。校内が危険になった時に不安。（デメリット）広い、天井は今年度冬に吊り天井から幕天井に改修。

④ 引き渡し方法

・引き渡し場所には机、名簿の用意。立ち会う人（副主事）限定し人が多くならないようする。

・引き渡しカードの扱いを明確に。忘れた時の対応を確認。

・カードについては年度当初の職員研修、保護者会で全体に説明する。カードの素材の見直し。

・カードの中身を検討（氏名、続柄、連絡先）。

・緊急時対応票を使用していなかった。雨の対応で混乱し、本部BOXすら開けていない。

・災害時に駐車できる場所を確認する。ドライブスルー方式は難しい。下車して受付に来てもらう。

・引き渡しの手順を確認する

⑤ 車の誘導

・雨天に加え、2台ずつ屋根のある場所にバックで入庫させたため、時間がかかった。

・ドライブスルー方式は難しい。引き渡しの際の連絡など個によって対応が異なるため。

・引き渡し訓練時間帯に来校する業者を確認しておく

・混乱時の回避方法を考えておく。近隣に迷惑を掛けないような配慮（表示、回観板等で連絡）。

・左折のみ、一步通行の徹底

・車の誘導に職員を多く配置するか標示等の工夫でなるべく少ない人数で対応するか

⑥ 医療的ケア

・避難後、医療的ケア対象児童生徒はケアの場所に集まることを確認

・点呼やケアの開始時期について対策本部との連絡事項を確認しておく

⑦ 保健・救護

・体調不良者の対応について（今回は発作で休養している生徒がいた）

・場所を分かりやすく表示する。

⑧ トイレ

・今回は別室に設置。マット、男女別、衝立、おむつ置き場等配慮する。

・おむつ替え（つかまり立ちができる等の理由で）通常のトイレ使用時の、小低の異性介助について。

課題と改善策について

今回の訓練では、

・学校災害対策本部としての指示連絡系統が不明確

・引渡し方法の確認

・避難場所の検討

・車の誘導

・体調不良者への対応

についての意見が多く挙げられた。引渡し時間が伸びたことで車の誘導については特に課題になった。

本校は車椅子の児童生徒が多いことと、居住地が遠いことで災害時の引き渡しは車が主な方法なると思われる。その際、本校の敷地内で混乱しないような対策をしておく必要がある。

本校の敷地の特性で、通常は正門から保護者送迎口に向かう際は、車の誘導係により片側通行が安全に行われるようにしている。災害時は混乱を避けるため、敷地内を一方通行にして校舎の北側の通路を通って南側の業者用の通用門から出るように計画している。北側の通路は狭く、普段職員以外は使用しないため、大型車両や車に乗りなれない保護者など通行に不安を持つ人も多い。

車の誘導係を多く設置するようにしているが、今回のように多くの車が殺到した場合、正門前のバスター・ミナル前に順番に並べるようにする職員が必要になる。

以上のような課題はあるが、災害時は通常よりも児童生徒の安全を確保するための配慮が必要になる。できるだけ職員は児童生徒から離れず、学校災害組織を精選し、少ない人数で災害時の運営をすることが課題になる。車の誘導も保護者ならびに児童生徒の安全確保の一つになるので、本校のような敷地の狭い場合は誘導係りの職員を適宜配置していく必要がある。トランシーバーやインカムなどを用意し、少人数で安全に誘導できる方法を考えることが今後の課題になる。駐車スペースの確保や安全な引渡し方法についても同時に考えていく必要がある。

改善策として

- ・車の安全な誘導方法の検討（駐車方法、分かりやすい表示、車の待機場所の想定見直しなど）
- ・引渡しカードの作成（素材、形式の見直し）
- ・緊急時対応票の改正（引渡しの際の担任のチェック欄作成・3年毎の更新で年度当初に確認のみ）
- ・引渡し方法を見直し、確認。

災害対策本部設置、引き渡しが決まった時点で緊急時対応票を担任に配布

↓
保護者、またはその代理の人が来校した際に受付にて引き渡しカードを提示

↓
担任が緊急時対応票（訓練用記入欄）にチェック
↓（カードを忘れた時は対応票に氏名、連絡先を記入してもらう）

名簿に時間、引き渡し者を記入

来年度以降、以上の点について引き続き検討を続けていく。引渡し訓練の必要性は全校で確認しており、来年度以降も実施単位を検討し、実施していく。

9. 災害時アクションカードについて

①作成の経緯

「アクションカード」とは元々医療現場で使われるカードである。緊急時に集合したスタッフに配布される「行動指標カード」であり、限られた人数と限られた物資でできるだけ効率よく緊急対応を行うことを目的として作られている。（鳴門教育大学より）

緊急時対応においてマニュアルがあっても、いざという時その場で開いて確認することは分厚さや携帯性がないため難しい。作成しても活用される可能性が少ない。しかしアクションカードは1枚の「カード」に役割毎の具体的な指示が簡潔に書かれ、ミスのないようチェックボックスを用意していて、緊急時に必要な行動をすることができる。実際に鳴門教育大学等で学校用に作成し、使用している事例がある。

本校のマニュアルも日々の指導の中で携帯することは難しい。これまでの避難訓練、引渡し訓練、防災研修等でそれぞれの動きを確認してきたが、それとの役割を十分に機能することができていない。マニュアルの内容を覚えきれないこともあり、このアクションカードを本校のマニュアルに基づいて作成した。

②カードの内容

それぞれの役割ごとに「校長」「教頭①」「教頭②」「教務主任」「学年長」「検索係」「防災部長」「防災部員」「SB部長」「SB部員」「養護教諭」「看護教員」「休日夜間」「校外学習」のカードを作成した。A5版でラミネートし、本部BOXに必要枚数（担当によっては複数枚必要）を用意し、災害時そこから取り出して役割ごとに配布する。

防災研修や避難訓練、引渡し訓練等で実際に使用し、内容を検討していく予定。



③職員用携帯版について

勤務時間外および校外学習時にも対応できるよう、携帯しやすいサイズに作成した。A6版。チャレンジプランの支援により作成予定。今後実際に使用してもらい、改善点等を挙げていく。

10. 職員防災研修 災害時のスクールバス対応訓練

本校はスクールバス7台を利用して通学をしている。本校の防災マニュアルではバス利用時の対応として

- ① 学校指定の「待機場所」へ向かう。それが難しい場合は安全に停車できそうな場所で停車する（判断はバスの乗務員）。
- ② そこで2~3時間停車する。保護者は災害発生時間を基に、バスの場所を想定し、そこから一番近い「待機場所」等まで迎えに来てもらう。そこで引き渡しを行う。被災した際、通り過ぎたバス停、「待機場所」には戻らない。
- ③ 「待機場所」で引き渡しができなかった児童生徒はバスが運行できる状況になり次第、学校へ戻る。（最終的に学校で引き渡しを行う。）

※地震発生以降の待機場所以外のバス停での乗降車は行わない。

※「待機場所」…バスの経路上、もしくは近くにある災害時に使用する安全に停車できる場所。

今回の研修では12月18日の3時15分に震度5強の地震が発生した、という想定で行った。児童生徒の下校状況は毎日同じではないからである。児童生徒のバスの乗車確認、スクールバスの現在位置と待機場所の確認、スクールバス支援班を派遣までの手順を確認した。また、一方でスクールバスを利用しない場合の対応の確認と校内の緊急安全点検の手順の確認という内容で行った。

目的については

- ・児童、生徒の在校時に災害が発生した場合を想定した対応について確認する。
- ・バス下校時に災害が起きた場合のスクールバス支援方法について確認し、課題を明らかにする。

訓練の流れは

- ・地震発生後 担当による校内外の安全点検
- ・職員室に集合 学校災害対策本部設置
- ・本部長からスクールバス支援班編成の指示
- ・スクールバス乗車児童生徒と保護者送迎・レスパイト送迎の児童生徒の確認、報告
- ・スクールバス支援班出発

反省・課題

- ・マニュアルなどの文字に書かれていると複雑なようだが、実際に動いてみると分かりやすかった。
- ・支援班の編成方法、物品、薬、現地での活動について明確にする。
- ・災害時の緊急安全点検の手順が課題になった（分かりやすい表記、緊急用に裏面に貼っておく等）。
- ・保健室でバス用の救急セットを用意しておく。
- ・バスを停車、待機させる基準を明確に（東日本大震災の時は通常運転できた）。
- ・災害時は動きやすいように自転車があったほうがいいのでは？
- ・対策本部を目立つようにする（表示やゼッケン、拡声器の使用など）

まとめ

今年度は様々な形式で職員防災研修を行うことができた。講師を呼んで行う研修も知識として得るものも多いが、職員が実際に動いて考えることで分かることや課題が見えることなどもあるので、今後も様々な方法で職員が自ら考えて児童生徒を守ることができるように学校づくりのための研修を行っていきたい。課題になった点については今後防災対策委員会を中心に検討していく。

11. 本校の防災教育実践例について

防災部からの指導案の提案や防災研修で各児童生徒への指導について検討してもらうなど、今年度は様々な試みで本校の防災教育について検討した（詳しくは5・6・7章参照）。児童生徒の実態が様々であり、防災教育への時数を確保するのは全校的に課題になっているが、その中でも現在の教育課程を元に実践した学年、グループの紹介をする。他にも朝の会で紙芝居の読み聞かせ等実施しているところもある。

① 小学部 1年生「生活科」 たのしさいっぱいあきいっぱい

(流れ)

- 自分で栽培したサツマイモの調理方法を考え、調理活動をする。
- 火を使うことなくできる調理方法としてビニール袋でサツマイモの煮物とふかし芋を計画し、サツマイモご飯の炊飯器に一緒に入れて炊く。
- 火を使わなくても美味しくできることを知る。

(様子)

- 色々な調理方法があることに驚きつつ、自分でできることが多くあり、楽しく調理活動が行えた。

② 小学部 5・6年生「家庭科」 安心安全なくらし

(流れ)

- 9月1日の防災の日の由来を知り、東日本大震災の時のことを思い出す。
- ワークシートを使い、学校やエレベーター、お店など様々な場面での地震の時の対応を確認する。
- 「ウサギ一家の防災荷造りゲーム」を行う。選んだ理由を発表する。
- 実際に防災袋に持参しているものと同じ非常食を試食し、災害時に食べたいものを考える。

(様子)

- 机の下に潜る際もどのようにしたらより安全か確認することができた。
- 学校以外の場所ではブロック塀、お店の商品棚の危険性を確認し、どのようにしたらいいか確認することができた。
- 震災のことをよく覚えていて、その経験から非常持ち出し袋に入れるものを理解していた。
- 非常食の缶詰に缶切りがあったことをきっかけに実際に使用し、試食した。初めて使うものだったが使い方を学ぶことができた。



中学部 Bグループ 生活単元「米の試食とサツマイモのつる取り」

(流れ)

- 自分達で育てた米をすりこぎを使い、手動で精米
- 精米した米をティーバックに入れ、お湯の入った鍋で炊く
- その間に畑のサツマイモのつるの撤去作業をする
- 炊き上がったら試食

(様子)

- 思ったより簡単にできた。生徒も美味しく食べていた。

③ 訪問部 高等部「防災学習をしよう」

(流れ)

- 「防災マン」の紙芝居の読み聞かせ
- 前日の地震の話を元にラジオから流れてきた緊急地震速報の音を聞く
- 防災グッズを袋から出してみる（防寒用のもの、食料、懐中電灯、ラジオ、薬、ヘルメット等）

(様子)

- 生徒は速報の音や袋から出てきたものに興味を向けていた。
- 一緒に参加していた家族も防災袋の中身に興味を持ち、家庭の災害対応について話題になる。
- ヘルメットにも興味を持ち、生徒にも必要かもしれない、と試着できた。

④ 高等部 Dグループ 理科

(流れ)

- 地震がある国（地域）、ない国（地域）
- 地震とマグニチュードの違い
- 地震波について（P波とS波）緊急地震速報の仕組みと限界
- 地球の構造と地震の種類
- 本校の地盤の危険性について

(特徴)

- 本校の特徴と地震の際の対応について再確認できた。
- 緊急地震速報は本校のシステムとしてはないことを確認し、その限界を伝えた。
- 本校のグランド側は川があり、地盤が気になるため災害時は近づかないことを伝える。
- 慌てて外に出ると地面が歪んでいて、車椅子では通れなくなる可能性があるので、教員が確認するまでは外に出ないことを生徒と再確認した。
- 車椅子で動けなくなった場合は教員がおぶい紐を使うことを伝えた。

⑤ 高等部 国語「真夜中のあんぱん」

職員防災研修の中で「指示を待たずに自分で考えることができる力」が課題になる生徒たちへの学習指導として行った。

(流れ)

- 災害時にどうしたらいいか、それぞれ考えてもらい、意見を出してもらう。
- 教員がいくつかの状況設定をし、その中で自分達がどう動いたらよいかをまとめて劇にした。（大きな地震が起きて、教室から出られなくなった。一晩どう過ごすか、と言うストーリー）
- 劇の練習を行い、2学期末の高等部おたのしみ会で発表する。

(様子)

- これまでの「覚えたことを言う」劇から「自分達はどうするか」について考え、動くという実践の場になった。



埼玉県立日高特別支援学校

成果物：「消火体験用的」

ねらい：水消火器体験学習の時に目標とする。

効 果：うまく水が当たると倒れ、「消えました」
の文字が見えるようになる。消えた
ことがわかりやすくなっている。



の時に目標とする。
と倒れ、「消えました」
ようになる。消えた
くなっている。



火

の時に目標とする。
と倒れ、「消えました」
ようになる。消えた
くなっている。



の時に目標とする。
と倒れ、「消えました」
ようになる。消えた
くなっている。

校外学習

本校職員

安全確保・状況確認

学校との連絡・ 保護者へ引き渡し

1. 安全確保・安全を確認

- 行事責任者が大きな声で的確な指示
- 危険回避、出口確保、周囲の状況確認

2. 一次避難

- 原則として当該学習地の指示に従う
- 迅速な安否確認
- 各担任から行事責任者へ報告

3. 現地災害対策本部設置と 学校へ連絡

- 計画表に基づき、現地対策本部を設置
(指示・連絡役で最低2名)
- 連絡担当が学校災害対策本部と連絡
(安否情報、現地の状況報告、今後の指示)
- 学校災害対策本部から帰校させるか否かの決定、
指示を受ける
- 連絡が不可能な場合、災害伝言ダイヤル171を
利用
(「171」→「1」→「0429854391」→録音)

4. 保護者への引き渡し

- 緊急時対応票に基づいて引渡す。時間記入・サイ
ンの確認
- 保護者と連絡がつかない場合、現地
(帰校が可能になつたら学校)で保護する。



休日・夜間

本校職員

参集・安全点検

一時避難所開設

1. 安全確保・周囲の安全を確認

- 自分自身、家族、近隣住民の安全を最優先に行動

2. 所属校または近隣県施設へ参集

- 参集する際は3日分の食料、飲料、手袋、帽子、マスク、身分証、筆記用具、携帯電話、ライト、着替え等、各自の必要なものを持参

- 所属校に参集するのが難しい場合は近くの

① 県危機管理防災センター

② 地域振興センター（地方庁舎内）

③ 県の地域機関（防災拠点校含む）へ参集する

3. 校内安全点検・情報収集

- 所属校以外へ参集した場合は参集先の指示に従う
- 所属校へ参集した場合、バスターミナル前に集合
- 学校災害対策本部メンバーのうち 1 人でも参集していればその人が指示を出す
- 職員室から本部 BOX を持ち出す
- 2 人 1 組で校内の安全点検し、その結果を本部に報告、校内地図に記入
- 危険箇所は立ち入り禁止の表示。必要に応じて校内の片付け
- 参集途中で知り得た情報、その後の情報収集の結果を本部に報告し、記録

4. 一時避難所開設

- 体育館等の安全確認後、一時避難所の開設の用意
体育館以外は使用禁止
- 必要な物品等は職員室脇の機械室にある
日高市の備蓄を使用する。
防災教育チャレンジプラン

